

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第73号

2024(令和6)年1月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

ワタの品種特性 — アブランド&スーピマ交雑種の特徴 —

ワタの品種特性を比較するポイントは、経験的には以下の5点です。①葉の形状、②花の形状(色を含む)、③実(蒴果/緑のボール、はじけたボール)の形状、④繊維長、⑤生育期(播種適期、開絮盛期)。

このうち、ワタの品質を決定付けるのはおもに④の繊維長であり、繊維質です。繊維長には短繊維、中繊維、中長繊維、超長繊維があり(日比暉「実用面から見た綿繊維の特性」『繊維学会誌』2006年、62巻7号191頁)、一般的には繊維長が長いほど上質とされ、高級綿となります。バルバデンセの系譜にあるシーアイランドコットン(海島綿)、エジプトのギザ綿、アメリカのピマ綿、インドのスピン綿、アメリカのスーピマ綿などと、中国の新疆綿等が超長繊維綿として最高品質とされています。一方、環境への順応性が高く、生産性も高いことから全世界で栽培され、「世界の綿花栽培の大部分(2019/20年で98%)を占めている」(<https://seaislandclub.jp/cottonstory/313.html> シーアイランド株式会社 HP より)のがヒルスツムの系譜にあるアブランド綿です。アブランド綿は、中繊維、中長繊維綿になります。

繊維質については、素人には実綿や繰り綿の山に手を入れた際に感じる感触の違いは理解できても、その違いを明確に言葉で説明することは容易ではありません。ちなみに、HVI(大量高速検品機、高速自動格付装置)による試験では繊維長のほかに、緯度(太さ)、強度、均整度(繊維長の長さのばらつき)、色相(輝き、黄色の度合い)、成熟度、伸度、水分率、紡績性指数などがすべて数字で表されます。

ところで、今季(2023、令和5年)に試験農場の7号畑で栽培を試みたアブランド&スーピマ交雑種には、意外な特徴が見られました。葉の形状はスーピマ綿に似て葉先が鋭く尖っているながら、花はアブランドにそっくりです。蒴果(緑のボール)の形状もアブランドに似て丸く膨らんでいるのですが、はじけた綿花の繊維はアブランドよりも心持ち長く、肌触りがソフトでスーピマに共通する要素を持っています。開絮期(綿が吹く、コットンボールがはじける時期)については木綿庵アブランドが9月初から始まるのに対して、交雑種は10月になってもはじけたのはごくわずかで、11月中旬になってようやく次々とはじけはじめました。開絮期が遅いのはスーピマ綿など超長繊維綿の特徴だそうです。

以上を整理しますと、交雑種の品種特性は、①葉はスーピマ、②花はアブランド、③実の形状はアブランド、④繊維長はスーピマ、⑤生育期(開絮盛期)はスーピマ、となります。

繊維質についてはジンニング(綿繰り)ののち、2月下旬に HVI 試験(一般財団法人ボーケン品質評価機構 中国山東省青島試験センター)に出す予定です。

試験結果と来季の栽培が楽しみです。

なお、アブランド(ヒルスツム)&スーピマ(バルバデンセ)交雑種の種のルーツについては、本誌第64号をご参照ください。



アブランド綿の蒴果



スーピマ綿の蒴果

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和5年12月26日～令和6年1月25日)

茨城県1、京都府1、島根県1、福岡県2

【H.A.M.A. 木綿庵】(令和5年12月26日～令和6年1月25日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数3組5名



《綿の栽培記録 2023》－ 令和5年度版 その7－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和5年12月23日～令和6年1月19日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

強風等の影響により延期していた5号畑および6号畑の綿木焚きを、12月28日に行い、1号畑の綿木引き、綿木焚きを1月14日に行いました。7号畑試験農場の和綿と洋綿、12号畑と14号畑の洋綿はまだ残してあります。7号畑のアブランド&スーピマ交雑種は、数は少ないながらもこの時期になってもまだはじけているものがあります。殻ははじけても繊維はふくらまないケースがほとんどですが、中にはふっくらとふくらんでいるものもあります。7号畑の和綿もわずかながら新たにはじけているものがあります。1月の厳寒期を迎えてもまだ綿は弾けるということを初めて経験しました。

【写真は左から12月28日の7号畑の交雑種3枚、1月2日の7号畑の和綿、1月14日の1号畑での綿木焚きの様子】



《全国コットンサミット実行委員会本部事務局より 2氏、来畑》 令和5年12月27日(水)

全国コットンサミットの天理招致の可能性について、全国コットンサミット実行委員会本部事務局より、松下隆氏、島田淳志氏の両氏にお越しいただき、ご相談させていただきました。H. A. M. A. 木綿庵の取り組みと、招致にかける思い、開催テーマ「農教福工商(農業、教育、福祉、工芸、工業、商業)連携、未来につなげるコットンプロジェクト — SDGs : 未来を担うこどもたちへ・人生百年時代のその先を見据えて」についてお話させていただき、機織り部屋と綿畑、会場候補施設をご覧いただきました。

《経糸の綜統通し—令和5年12月3日～28日、箄通し—令和6年1月3日～10日》

経糸(たていと)の総本数568本。両端2本取り。2枚の糸綜統に1本ずつ糸を通していく作業は極めて重要で神経を使う工程。平均すると1日約20分で3週間を要しました。箄通しは、1の糸と2の糸を2本セットにして1羽に通す作業。いずれも総本数を正確にカウントした上で、右端のスタート位置を決定します。

《機掛け—令和6年1月18日、織り付け—令和6年1月21日》

機掛けは経糸(たていと)を機(はた)に掛けて開口を確認する作業。もっとも緊張する一瞬でもあります。織り付けはまず細切りの厚紙2枚、藁しべ2本を通します。この段階で、2本の糸の交差と、1本の糸の綜統通しミスが見つかりました。復旧に3時間ほどを要しました。



【研修等の記録】

- ・ 令和5年12月27日 全国コットンサミット実行委員会本部事務局より松下、島田両氏来畑、視察
- ・ 令和6年01月17日 Narakko!(奈良っこ)のWEBサイトに、5月3日の種まきイベント情報提供。掲載予定。
- ・ 令和6年01月21日 自家栽培綿の手紡ぎ糸を大和機で織り始める。「大和山辺木綿」創成の第一歩